RACE REPORT

Green Brave

JapaneseEnduranceRace Super Taikyu

BRIDGESTONE ENEOS

＃52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 Supported by BRIDGESTONE 第７戦
2023 年 11 月 11 日（土）～12 日（日）
S 耐ファイナル 富士４時間レース with フジニックフェス.

■■■予選のアクシデントを乗り越え今季４勝目と全戦表彰台を達成■■■

第７戦のレース時間は４時間。ジェントルマンドライバーの山﨑選手と GB ドライバーの吉田選手、服部選手、川合選手が出場しました。土曜日（予選日）の天候は雨。ジェントルマンドライバーが出走する A ドライバーの予選では、直前に降り始めた雨の中、山﨑選手がドライタイヤでアタック。難しいコンディションの中、1 分 48 秒 579 のベストタイムをマークし、トップにつけました。プロドライバーが多く出場する B ドライバーの予選では、雨量が強まる中、吉田選手もドライタイヤでアタック。1 分 53 秒 011 のベストタイムをマークして４位。両ドライバーの合算タイムにより予選 2 位となり、好位置を獲得しました。C ドライバーの予選では、服部選手がウェットタイヤでマシンのバランスを確認。続く D ドライバーの予選も川合選手が同様のセットでコースに入りますが、走行中に後続車に追突されるアクシデントが発生します。左リアまわりを破損しており、一時は決勝の出走も危ぶまれましたが、店舗メカニックが持ち前のチームワークを活かして修復を実施。その日中にリペアを終えることができました。

決勝結果（ST-Z クラス）
＃52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4
（山﨑 学／吉田広樹／服部尚貴／川合孝汰）
決勝：１位（127 周、４時間 02 分 16 秒 891）
予選：２位（合算タイム３分 41 秒 590）

日曜日（決勝日）の天候は曇りで、路面コンディションはドライ。チームはスタートドライバーに吉田選手を起用。得意のピット戦略を駆使し、川合、服部、山﨑とつなぎ、トップを狙います。12 時 30 分、4 時間の決勝レースがスタート。吉田選手は予選 1 位の#22 ケイマンに続き 1 コーナーへ進入しますが、#885GR Supra にかわされ、3 位に後退します。5 周目に#885GR Supra を抜き返し、2 位に復帰。31 周目、#22 ケイマンのピットインにより吉田選手がトップに浮上し、その後、#885GR Supra とテールトゥノーズになります。43 周目の終わりに#885GR Supra がピットに入ると、翌周に吉田選手もピットイン。川合選手に交代し、給油のみでレースに復帰します。

長めの給油を行った川合選手の順位は#885GR Supra と 15 秒差の 2 位。川合選手のペースは良好で、15 秒あった#885GR Supra との差を 7 秒まで短縮し、さらに#885GR Supra が 67 周目にピットに入ったことでトップに浮上します。81 周目には#885GR Supra を周回遅れにするまでリードを拡大。川合選手は 89 周目の終わりにピットに入り、服部選手に交代します。給油とタイヤ交換を行いピットアウト。服部選手はトップのままコースに復帰します。#885GR Supra に対するリードは 55 秒。残るハードルは山﨑選手の乗車義務（1 時間）をクリアすることです。タイヤのウォーミングアップを終えた服部選手は、93 周目の終わりにピットイン。山﨑選手に交代し、給油のみの作業でコースに復帰します。この時点で山﨑選手の順位は#885GR Supra に次ぐ 2 位ですが、101 周目に#885GR Supra が最後のピットイン行い、作戦通りトップへ。両者の差は 30 秒ほどで、山﨑選手はチームの指示を受けながら、安定したペースでラップを刻みます。山﨑選手は#885GR Supra に 20 秒差をつけてトップチェッカー。今季４勝目、全戦表彰台という最高の結果を残し、有終の美を飾りました。

山﨑選手と並ぶ、今大会の功労者が 6 名の店舗メカニック。市販車の GR Supra と大きく異なる GT4 車両に戸惑いながらも、土曜日の予選中に発生したクラッシュに対応。元通りにクルマを修復し、4 人のドライバーの戦いを後押しすることができました。表彰式の終了後には、第 2 戦の富士で共に戦った野中誠太選手も参加し、記念撮影を実施。ピットは大きな盛り上がりを見せました。

©2023 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.

DRIVERS VOICE

前の 3 人がギャップをつくってくれたのでぼくはコースにとどまっているだけでよかったです。ペースを上げる余力はありましたが、後続とのギャップを意識しながら確実にマシンをチェッカーまで走らせることを最優先に走りました。ショートスティントの服部選手にタイヤの熱入れをしてもらったことで、アウトラップから安心して走れました。少し出来すぎの結果だと思いますがチームが力を合わせて掴んだ結果なので胸を張りたいと思います。応援していただき本当にありがとうございました。

（山﨑　学選手）

序盤のペースは良かったものの、周回遅れとの巡り合わせで後半はライバルに接近されました。その中でもお互いフェアなレースができたのでポジションをキープしたまま交代することができました。チームの作戦を 4 人のドライバーがしっかり遂行できたので、強いライバルチームにアドバンテージを持ってチェッカーを受けた完璧なレースだったと思います。シリーズチャンピオンと全戦表彰台という完璧な 1 年にできたのも応援あってこそだと思います。ありがとうございました。

（吉田広樹選手）

表彰台が獲得できる順位ならどこでもいいと思っていましたが、こんなに作戦がうまくいくとは思いませんでした。今回の作戦は自分の走る周回数は減りますが、最も効率的で、現状考えられるベストな作戦を実行できました。前戦でチャンピオンを決めて、今回の最終戦でもう一度優勝できて本当に良いシーズンでした。全戦表彰台に登れる壊れないマシンづくりをしてくれたチームに感謝します。来年も今年と同等の成績を残せるよう、みんなで力を合わせて頑張ります。

（服部尚貴選手）

セカンドのパートを担当させていただいた時のペースは悪くなかったのでロングスティントを走る形になりました。タイムの落ちも少なく走れ、自分なりにミスなく終えられたので満足しています。予選のアクシデントもありましたが、結果としてチーム力の強さが表に出たと思います。シリーズチャンピオン、全戦表彰台かつ最終戦も優勝というこれ以上ない結果を残せました。今シーズン、皆さんの応援を活力に頑張って走ることができました。本当にありがとうございました。

（川合孝汰選手）

ST-Z クラス決勝結果

1 位：埼玉トヨペット GB GR Supra GT4（トヨタ GR Supra）127 周
2 位：シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO（トヨタ GR Supra）127 周
3 位：Porsche EBI WAIMARAMA Cayman GT4 RS CS（ポルシェ ケイマン）127 周
4 位：SUN'S TECHNO AudiR8 LMS GT4（アウディ R8 LMS GT4）126 周
5 位：ナニワ電装 TEAM IMPUL Z（日産 Z GT4）126 周
6 位：ベンチャー投資のファンディーノ AudiR8 LMS（アウディ R8 LMS GT4）126 周
天候：曇 路面：ドライ トップ 6 まで（出走 11 台）

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	**52**	**埼玉トヨペット Green Brave**	**174.00**
2 位	885	SHADE RACING	141.50
3 位	34	TECHNO FIRST	99.00
4 位	26	TEAM ZEROONE	77.50
5 位	21	Audi Team Hitotsuyama	73.00
6 位	19	Birth Racing Project【BRP】	60.50
7 位	20	ナニワ電装 TEAM IMPUL	59.50

1 年間応援ありがとうございました！

Green Brave PARTNERS

赤城車体工業株式会社
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション
株式会社 FM　NACK5
株式会社岡崎巧芸
株式会社カーグラス・JP
埼群スリーボンド株式会社
株式会社三和広告社
JU 埼玉オートオークション株式会社
株式会社西武ライオンズ
ティーズ・ワークス
株式会社デンソーソリューション
株式会社ドーム
トヨタホーム東京株式会社
トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社
ファクトリーギア株式会社
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
丸和工業株式会社
Mechanix Wear LLC

※50 音順

©2023 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.